

第10回（書面開催）地震・津波技術評価検討会

議事概要

1. 日 時 令和2年4月21日（火）～4月24日（金）

2. 要 領 書面審議

3. 議 題

令和元年度安全研究プロジェクトの技術的観点からの評価
（地震・津波技術 事後評価）

4. 配布資料

名簿

資料1 原子力規制委員会における安全研究の基本方針

資料2 今後の研究評価の進め方について（抜粋）

資料3－1 安全研究成果報告（案）

・断層破碎物質を用いた断層の活動性評価手法に関する研究

資料3－2 安全研究成果報告（案）

・地震の活動履歴評価手法に関する研究

資料3－3 安全研究成果報告（案）

・地震ハザード評価の信頼性向上に関する研究

参考資料1 安全研究成果報告（案）説明資料

5. 概 要

原子力規制委員会では、安全研究の的確な実施及び成果の活用を図るため、安全研究プロジェクトが終了した際には事後評価を実施することとしている。本検討会では事後評価にあたり、外部専門家の評価及び意見並びに産業界等の専門的な技術的知見を有する者（専門技術者）の意見を聴取した。検討会における主な意見及びその対応は以下の通り。

5. 1 断層破碎物質を用いた断層の活動性評価手法に関する研究

- 電磁気探査により地下の活断層形状を認識する方法は興味深いところではあるが、調査であぶりだされるのは比抵抗構造であり、それから（活）断層

構造を理解するにはいくつかの仮定もしくは付随的な情報が必要であり、探査方法のひとつとして認識する必要がある、との意見があった。調査手法の組合せが重要と考えていることから、報告書内においてその旨の記載を追記することとする。

- 上載地層法に代わる、適切な断層の活動性評価法の開発はとても重要なことであるため、国内外の学界でのチャレンジを適切に確認しながら、取り組んでほしい、との意見があった。継続プロジェクトにおいては、さらに適用例を増やしていくこととする。
- 今後は各テーマの主要技術について、論文化を進め客観的な評価を受けることが必要である、との意見があった。今後、論文等として成果を公表していくこととする。

5. 2 地震の活動履歴評価手法に関する研究

- 宇宙線核種を用いた年代測定は、断層運動等の年代測定を進めるためには必要な技術であるので、適用例を踏まえて、その信頼度や精度、適用範囲を確認するとともに、国内外の学界での動向を常にモニターし、幅広く手法の高度化を進められるような体制を整えていただきたい、との意見があった。令和2年度(2020年度)から開始する安全研究プロジェクトにおいて適用例を増やし、国内外の動向を注視しつつ、その信頼度や精度、適用範囲を確認していくこととする。
- 年代測定技術はサイトの安全性の判断に大きな影響を及ぼすこと、またその決定に関して透明性・合理性を担保するための事例の蓄積が非常に重要であることから、積極的に成果を公表して第三者の意見を参考にするとともに、具体的なガイドラインを充実させていくことが必要である、との意見があった。年代測定技術については今後も積極的な成果の公表を進め、透明性・合理性を確保した知見の蓄積及び審査ガイド等を補強する NRA 技術報告等に繋げていくこととする。

5. 3 地震ハザード評価の信頼性向上に関する研究

- 研究全体としては、丁寧な分析が行われており、今後の適用にあたり、有益な情報を提供できる研究成果が得られている、また、今後も国内外の学界の動向を踏まえた調査を継続することがある、と評価された。
- 断層変位に関して、本研究プロジェクトで提案した衛星データの活用による断層変位の検出手法が非常に有効であり、今後、副断層起因の変位の判別法

等の研究が望ましいと評価された。また、主断層と副断層の定義や識別について更なる検討が必要であるとの意見があった。令和2年度（2020年度）から開始する安全研究プロジェクトにおいて断層変位評価に係る研究を推進していくこととする。